



第2号「校歌」の作詞者に関するヒストリア (10.4・金曜日に配布) を読んでいただけただけでしょうか？
 今回は、校歌の作曲者に関するヒストリアです。

1 校歌の作曲者は、だれでしょう

校長室の古い額縁に入れられた歌詞や学校要覧などにも、「作曲：三界実義」と書かれています。

三界実義 (みかいさねよし) さんとは、いったいどんな方だったのでしょうか。

今回も過去の情報が乏しく苦労しましたが、校区にお住いの方の協力などを得て分かりました。

多くの方は、実義さんの兄である「三界稔 (みかいみのる) さん (本名：実友さねとも) のことは、よくご存じかもしれません。

1901 (明治34) 年2月10日生まれ。昭和9年ポリドールの専属の作曲家となられ、1913年「上海だより」が上原敏(びん)の歌でヒット。戦後は郷里鹿児島県奄美大島をテーマとした田端義夫歌唱の「島育ち」などを作曲された方です。

1961 (昭和36) 年6月13日、60歳で死去。その作風は「奄美新民謡」と評されることもあり、代表作である「島育ち」は全国的にヒットし、長年にわたって歌謡史に足跡を残した名曲です。

<兄：三界稔さん>→

この三界稔さんのことについては、(株) セントラル楽器会長 指宿良彦さんが、著書『大人青年 (ふちゅねせ)』の中で次のように書いておられます。



三界稔先生は、昭和33～34年頃に、おかかえ歌手の東郷まつ子さんを連れて、よく大島郡の各地を巡業していました。島口で話す気さくな方で、資金が底をつく、私の店 (セントラル楽器) にもよく遊びがてら無心にいらっしゃいました。

「指宿君、今日は2万円ほど用立ててくれないか。」

【島育ち】【大島小唄】【奄美小唄】【月の白浜】【はたおり娘】などの、たくさん名曲を作られた方ですが、当時の音楽家としての生活はそれほど楽ではなかったようでした。

ある時、話はずんだその勢いで三界作品が大好きだった私は、ダメで元々だと思いついてこう言いました。

「三界先生、先生の曲を私に譲ってはいいただけませんか。」

先生はニコニコして、「君が好きなものを何でもあげるよ。契約書に曲名を書きなさい。『島育ち』はどうかね？」

私は、戦前から『島育ち』をイヤというほど聴いていましたから、とっさに

「いや、それ以外の曲をみんな私に譲ってください！」

と言ってしまいました。

三界先生は、意外そうな顔をなさいましたが、「君の好きなようにしなさい。」

こうして、この時に三界稔メロディのほとんどすべてをいただいたのでした。その後、これらの曲を昭和35年に録音しましたが・・・

この続きの話は、指宿良彦さんの著書『大人青年』に詳しく書かれてあるようです。

校歌の作曲者：三界実義さんは、奄美新民謡の大家であった三界稔 (本名：実友) さんの「弟」なのです。

残念ながら、実義さんの生誕没年に関する詳しい資料を手にすることはできていません。

2 三界実義さんの業績は？

奄美大島の出身で東京を拠点にして、作曲の仕事がされていたようです。国立国会図書館の資料「ふるさとの唄：歌謡と民謡」によると、作曲された歌謡曲や民謡は以下のとおりです。

「炭焼小唄」「恋の散歩道」「市道小唄」

奥多摩民謡「おじよもんごうろ」(奥多摩民謡)

このほかに、全国各地で校歌の作曲をされています。徳之島商工高等学校 (現在の楠南第二高等学校)、富山県立南砺福光高等学校、奄美市立小湊小学校、南九州市立宮脇小学校、鹿児島市立荒田小学校、東京都葛飾区立桜道中学校、東京都福生市立第五小学校、東京都あきる野市立戸倉小学校、東京都狛江市立第四小学校、東京都利島村立利島小中学校、栃木県足利市立梁田小学校など。



↑

<弟：三界実義さんは、どんなお顔だったのでしょうか？>

奄美大島の大先輩が、昔々、全国各地で校歌の作曲がされていたのです。どんな曲なのでしょうかね！

さて、「ヒストリア第3号：校歌の作曲者」はいかがでしたか？感想や要望などを聞かせてください。

田検小学校の「昔々のこんなこと、あんなこと知りたい (知っています)」を募集中。(文責：福田裕生)